

約半世紀前、東京駅の丸で「夏休み科学展」が開かれた。その企画・展示・運営を学研が委嘱された。入口のメイン展示はカタツムリだ。その担当が私になった。さあ大変。生きたカタツムリを集める必要がある。

カタツムリは湿り気が好きだ。梅雨時は雨が降るとすぐ現われる。だが、七月の真夏になると姿を消してしまう。どこを探しても見当たらない。どこへいったのだろう。さあ、その居場所を突き止め、その理由を調べてみよう。

幸い、当時の南畠にはカタツムリは沢山いた。梅雨時には、二、三十四位すぐ捕れてしまう。これで一安心。だが、そろそろは問題が釣さなかつた。いざ展示が近くなり、採集を始めてがく然とした。

カタツムリがどこにもいないのだ。木の枝、葉っぱの裏、草の中などあらゆる場所を探したが見当たらない。おかげで、一体、どこへ行ったのだろう。焦った。

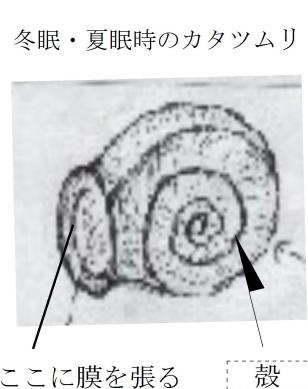
調べてみて、その原因が分かった。多くの虫たちは、寒い冬は冬眠する。変温動物なので気温が下がると体温も下がり、動きが鈍くなる。零度以下になると体が凍つて死んでしまうこともある。だから、零度以下にならない場所を探して、生き長らえるのだ。いわゆる所謂冬眠だ。

幸い、当時の南畠にはカタツムリは沢山いた。梅雨時には、二、三十四位すぐ捕れてしまう。どこを探しても見当たらない。どこへいったのだろう。さあ、その居場所を突き止め、その理由を調べてみよう。

幸い、当時の南畠にはカタツムリは沢山いた。梅雨時には、二、三十四位すぐ捕れてしまう。これで一安心。だが、そろそろは問題が釣さなかつた。いざ展示が近くなり、採集を始めてがく然とした。

カタツムリがどこにもいないのだ。木の枝、葉っぱの裏、草の中などあらゆる場所を探したが見当たらない。おかげで、一体、どこへ行ったのだろう。焦った。

暑い夏に見つかならなかつたのは、そのためだ。その後、あちこち探してみた。いたい



夏眠前のカタツムリ(7月初め)



梅雨時のカタツムリ
(腹足がよく目につく)

夏も眠るカタツムリ

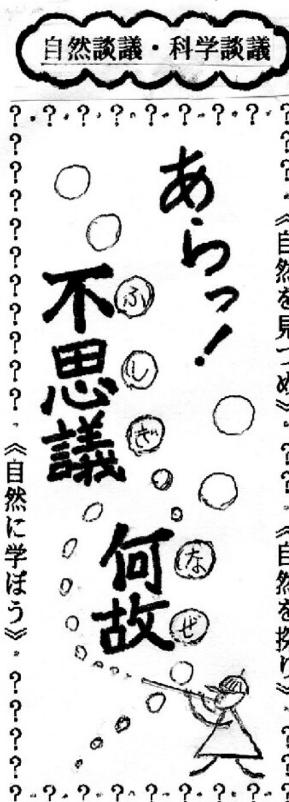
當時は、カタツムリ供給業者は皆無だった。

さて、困った。自分で集め

多くの虫たちは、寒い冬は冬眠する。変温動物なので気温が下がると体温も下がり、動きが鈍くなる。零度以下になると体が凍つて死んでしまうこともある。

だから、零度以下にならない場所を探して、生き長らえるのだ。いわゆる所謂冬眠だ。

どうなたか研究して見ませんか。新発見ができるかも知れません。



NO. 16 (通算16)

絵・文・題字 渋谷 一夫

避難場所はどー?

カタツムリの体は、水分蒸発を防ぐ機構が不完全である。そのため、湿度の高い地中の穴やすき間に潜んで、

この役割で、カタツムリが夏眠すること、変温動物の夏冬の過ごし方など、生態の一部を知ることができた。

やれやれ一安心。カタツムリの生態の一部を垣間見た感じだ。

夏冬の過ごし方など、生態の一部を知ることができた。